

「第2回 令和元年度台風第19号により被災した河川管理施設等の技術検討会」
 (令和元年12月13日開催) 指摘事項と対応について

番号	委員名	意見	対応(事務局案)	備考
1	風間 委員	・ 破壊メカニズムについては、二次元的なもののみならず、平面的に堤防を厚くする箇所を設けるなどの対応ができないか。	・ 水衝部については、必要に応じて根固工を施工する等、対策を行っていきます。	—
2		・ 砂防事業との連携についてはどうか。 「手戻りなしの対策」を行ってほしい。	・ 砂防事業については、現在、国で進めている対策と連携を図りながら進めていきます。	—
3	佐々木 委員	・ 被災要因については、上下流の状況も含めて考えてほしい(土質構成や築堤の履歴等も含めて)。	・ 決壊箇所については、健全箇所も含めて地質調査を実施し、土質構成を調査したうえで、対策を検討していきます。	資料4 P20～ P36
4		・ 落堀(おっぼり)については、個別に対策が必要と考えているため、対策を検討してほしい。(パイピング、湧水、地盤改良などの対策)	・ 地質調査の結果、決壊箇所については湧水の発生箇所は特にみられませんでした。 ・ 基礎地盤の層に砂層が見られたことから、パイピング対策などを今後、検討していきます。	資料4 P40～ P42
5	服部 委員	・ 今回の復旧で河川の整備水準については、どこまで上がるのか。	・ 平成24年策定の河川整備計画では、1/10規模としていましたが、今次出水を踏まえ、1/30規模の整備水準とします。 ・ 1/50相当についても河道内に治める計画とします。	資料4 P7～ P14
6		・ 今回の復旧対策後には、今後の豪雨に対してどうなるのか。	・ 復旧対策後には、超過洪水については、避難計画や情報提供なども踏まえ、ハード、ソフトを組み合わせ対応していきます。	資料4 P14
7		・ 侵食に関する被災要因について明確に示されていないので、考慮してほしい	・ 侵食に関する被災要因についても対策を検討します。	資料4 P39
8		・ 復旧方針については、堤体・基礎地盤の土質構成を考慮し、分類して対策を検討してほしい	・ 地質調査の結果や築堤履歴を踏まえて、対策を検討します。	資料4 P38～ P41
9	水越 委員	・ 越流箇所については、堤防肩まで護岸工を実施してほしい	・ 越流箇所については、被災要因を除去するため、堤防肩まで、護岸工を施工することとしました。	資料4 P40～ P42
10	田中 委員	・ 今回の出水について、シミュレーションを実施しているため、堤内からの越流、狭窄部の状況など、平面的な対策を考えるうえで参考にしてほしい。	・ 計算結果については、情報共有させていただき、今後の対策に活用していきます。	—
11		・ 当該地域は、地盤沈下しやすいと聞いているため、護岸工を含めた堤防整備後のメンテナンス等も含めて対策工法について検討してほしい。	・ 地質調査の結果も踏まえて、必要に応じて地盤沈下対策も行っていく予定です。	資料4 P20～ P38